

悲観的に準備し、安全・安心を確保する

CSRのなかでも、京阪グループが最重要視しなければならないのは「安全・安心の確保」です。

交通事業においては、事業者自らが経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制を構築し、国がその実施状況などを評価する「運輸安全マネジメント制度」が、平成17年10月に導入されました。当社はその制度の導入以前から、現在の「鉄道保安総合委員会」の前身である「運転保安委員会」を設置し、安全確保のための全社的な取り組みを40年以上にわたって続けてきました。そこでは、自社の事案だけでなく、他社の事例で運転保安にかかわる問題も議題として取り上げ、安全施策の強化を図ってきました。そうした安全への取り組みの長い歴史は、お客さまから「事故のない京阪」とご評価をいただける結果となっており、この財産を今後も堅守していかなければなりません。

「悲観的に準備し、楽観的に対処すべし」というのが私の経営に対する信条ですが、安全への取り組みでも、あらゆるリスクを想定し「悲観的に準備」しておくことが大切です。シミュレーターでの事故の模擬学習など、万が一事故が発生した場合でも被害を最小限にとどめる訓練をしておくことも重要です。

事故を未然に防ぐ制度やシステムの構築は当然ですが、私は、事故を起こさないための風土づくりも重要だと考えています。そのために、自部門内はもちろんのこと、他部門とも風通しのいい社風づくりや、事故や「ヒヤリハット」の経験を共有化し、それを若い世代に伝承できる仕組みづくりにも取り組んでいきます。

お客さまに「安心」してご利用いただけるように「安全」を確保することが最優先課題であることを、交通事業はもとより、京阪グループが展開している全ての事業分野においても徹底していきます。

CO₂削減のために、公共交通利用を促進

当社は、平成16年3月に鉄道業界で初めて、会社全体でのISO14001の認証取得を達成しました。より環境にやさしい企業を目指し、グループ会社も含めて環境経営を推進しています。

平成20年4月から「地球温暖化防止京都会議」で議決された「京都議定書」の第一約束期間がスタートし、CO₂削減が非常に切迫した重要な課題となっています。鉄道



など公共交通は自家用車などに比べてエネルギー効率が高く、その利用を促進することがCO₂削減につながります。当社では平成20年10月19日に中之島線の開業を予定していますが、たとえば中之島駅から出町柳駅まで移動するのに、マイカーを利用した場合と当社線を利用した場合ではどれだけCO₂を削減できるかなど、その効果を見える形でお客さまに提案したり、京都へ来訪されるお客さまへの「パーク&ライド」利用による京都観光をPRするなど、公共交通利用の促進を図っています。これらに加えて、省エネルギー車両の導入や省エネルギーを意識した運転方法の指導など、鉄道電力削減にも一層積極的に取り組んでいきます。

こうした環境経営と、安全への取り組み、お客さま満足、地域への貢献をはじめとしたCSRを一層推進させるため、当社では、社長である私が委員長を務める「京阪グループCSR委員会」を設け、その下部組織として内部統制委員会およびコンプライアンス、環境マネジメント、情報セキュリティの各専門委員会を設置しています。

これからも私が陣頭に立ち、「経営の品格の向上」をベースにCSR経営をさらに推進することで、今まで以上に「選ばれる京阪」を目指していきます。



平成の京阪 大鳥瞰図(浪華・京・近江)

絵師 村上 五朗氏作

沿線を中心に、今後広がっていく京阪エリアをイメージして作成された大鳥瞰図。細密な描写とぬくもりのあるタッチは安全性を重視して地域社会とのかかわりを大切にする精神を、鳥瞰図的技法は長期的ビジョンで周囲を見渡す経営の視点を表現しています。